

今月の論語

はか
らざりき
楽を為すことの
斯に至らんとは

まあ、音楽がこんなに良いものだと、今まで思ってもみなかった。

今月の楠宅放送は、東原岸中央校9年の松田笑里さんです

野の仏ギャラリー ⑲

文殊菩薩坐像

南多久町下多久

光背(上部を欠損)と坐像と蓮華台が一体化しています。頭部に円文がある宝冠を載せ、頭髪を高く結い上げています。胸飾りがあり、左手に経巻、右手に剣を持っています。天衣が肩から腕を通り膝下に垂れています。文殊菩薩は優れた知恵をもつ菩薩とされます。



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

銘「四国阿波本尊文殊菩薩州壹番」「納所邑字石原三人名」

- 菩薩は本来悟りを開く前の修行中の者を称します。
- 剣は知恵の象徴とされます。
- 天衣はシヨール状の衣です。
- 銘の「四国阿波州壹番」は土佐三十一番の竹林寺です(銘の阿波は誤り)。

連載

教育長コラム

ちよっとい話



素晴らしい若人たち

成人式を実行委員会形式にして4回目、令和3年1月3日も素晴らしい式典となった。

実行委員長は挨拶前、私語をする幾人かの参加者が静まるまで視線を投げかけて待つという落ち着いたきざりで、一喝するのではないかと思う程の気迫だった。5年前を思い出した。

実行委員はSNSでも打ち合わせをし、コロナ禍での安全対策も考慮していた。特筆すべきは、自分たちで早期に同窓会を自粛すると判断し、呼びかけたことだ。そして、式を開催してもらえたことに感謝する時だとも述べた。合言葉は「コロナの後にまた会おう」。

その後、全国で成人式が挙行されたが、行政が必死に同窓会の自粛を呼びかけ、新聞の見出しにも書かれた。

自主的な取り組みの多久の新成人たちの優秀さが際立った。多久の未来は明るい。

教育長 田原優子

市民文芸

白々と夜明けは淋し眠る間のみに
悲しきことの忘れられるに

川浪 信子
柚子湯よりあがりし孫のやわ肌
やさしい香りまぶしくうつる

梶原恵美子
深い傷それを笑いに変えた時
人生は春こだわりの味

野崎 隆幸
教え子に慕われていたと弔辞聴く
夫介護せし歌友の背細く

浦野 嘉恵
亡父の造りし石灯籠の丸屋根に
指立てて雪の深さを計る

尾形 節子
初風の風をひろふて一番手
おおやはな

武富 律子
まだ馴れぬ寒さに嬰の拳かな

中嶋 清子
絶筆となりし賀状を読み直す

富樫 明美
傍らに句のある暮し梅含む

本村 則子
喪の家の庭の片隅 石露の花

西山 残月
温泉地素通り出来ぬ新幹線

田代まつこ
美肌の湯と云うから行ってみたくなる

大谷 和
忙しい云いつつ夫は胡坐かく

高塚ちかこ
コロナ禍も気持新たに初日の出

田中 正春
お年玉並ぶ子供等 真面目顔

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久市川柳会互選》